

セントラル ミンダナオ大学キャンパスのサゴヤシ

岡崎正規

東京農工大学大学院生物システム応用科学研究所 〒183 東京都府中市幸町 3-5-8

Sago Palm in the Campus of Central Mindanao University

Masanoli Okazaki

キーワード サゴヤシ, フィリピン, ミンダナオ

日本学術振興会マルチラテラルプロジェクトの「畑作地農業のエコシステムに関する研究」(プロジェクトリーダー: 穴瀬真東京農業大学教授)の一環として Philippines の Mindanao 島を訪れる機会に恵まれた。平成7年3月17日から30日までの14日間に、フィリピンにおいて現在進められているアグロフォレストリーの実態を調査・研究し、プロジェクトの発展方向を見定めることが訪問の目的であった。

3月17日(金)から23日(木)までは、Los Banos に滞在し、University of the Philippines at Los Banos (UPLB) でアグロフォレストリーのプログラムに参加したり、アグロフォレストリーの専門家と話し合いを持ったりした。

24日(金)に Manila 空港を飛び立ち、ミンダナオに向かった。Cagayan De Oro 空港に降り立つと、Central Mindanao University の Mugot 教授(農業経済学)が出迎えてくれた。ミンダナオ島の北部に位置するカガヤンデオロ空港から大学のある Musuan までは、アップダウンを繰り返しながら徐々に高度をあげる道路を自動車ですら約4時間かかった。ミンダナオ島は、わが国の丘陵地のスケールを大きくした波丘状の地形を持ち、セントラルミンダナオ大学は標高約550mにあった。大学のキャンパスは広く、ゆったりしており、キャンパス計画にしたがって、種々の熱帯樹種が整然と植栽されていた。翌25日(土)に正門の南にある凹地に20mほどの見事なサゴヤシが一株、天をついているのを見つけた(写真1)。官舎に住む人に尋ねたが、これがサゴヤシであるとは知らなかった。サゴヤシに間違いはないというとミンダナオではルンビアとよんでいると教えてくれた。ミンダナオ島全体がサゴヤシの生育が可能な北緯10度以内にすっぽりと入ってしまうことは頭では分かっていたが、これほど標高の高い場所に、見事なサゴヤシが生育しているとは思ってもみなかったのだから、驚くと同時に興奮を覚えた。

このサゴヤシは、セントラル ミンダナオ大学初代学長

の Zosimo Montemayor 教授が植えたものであると副学長の Angelo Josue 教授(植物病理学)から知らされた。サゴヤシの将来性や今後のサゴヤシ関連工業の発展の可能性を語ると、Josue 副学長は2haの水田圃場をサゴヤシ圃場に切り換えて、サゴヤシ栽培試験を行ってくれること、さらにミンダナオ各地に生育するサゴヤシを収集することを約束してくれた。



写真1 セントラル ミンダナオ大学キャンパスに生育するサゴヤシ

26日(日)からは、ミンダナオ島に森林を再生させる大きな事業やセントラル ミンダナオ大学が進めているアグロフォレストリーのプロジェクトサイトなどを見学し、フィリピンにおけるアグロフォレストリーの実態を知ることができたとともに、今後の研究の方向性を見い出すことができた。

アグロフォレストリーの研究とは別に、サゴヤシをミンダナオ島で確認できたことがたいへん嬉しかった。1,2年後には、見事なサゴヤシがセントラル ミンダナオ大学の圃場で見られることを大いに期待しつつ、28日(火)にセントラル ミンダナオ大学をあとにした。